

平成 30 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社 あみ定	ホーム名	シニアホーム勢多夕照苑	ID	3017
	評価機関	特定非営利活動法人京都府認知症グループホーム協議会	評価日	2018.12.5	

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.3	A	A	6.1.2	B	B
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	B	B	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	A	A	2.3.6	B	B	6.2.2	A	A
1.2.1	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.2	C	C	2.3.8	A	A	6.2.4	A	A
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	B	B	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	B	B	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	C	C	6.2.8	A	A
1.4.1	B	B	2.4.2	B	B	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	B	B
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	B	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	B	C
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	B	B	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	B	B	3.1.3	B	B	7.3.1	B	B
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	B	B	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	B	B	7.4.1	A	A
2.1.2	B	B	4.1.1	B	B	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	B	B	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	B	B
2.2.3	非該当	非該当	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	B	B	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	B	B	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	B	B	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点

スケールNo.	所 見
2-3-3	サービスの質の向上に向けて、ホーム内に役職者会議・各種の委員会（リスクマネジメント・食事・企画等）の職種部門を超えた検討組織を設置している。さまざまな立場の職員が会合に寄り、利用者の日常的なサービスの提供方針等を決定し、ホーム全体で課題に取り組んでいる。決定事項を議事録に記述している。リスクマネジメント委員会では、詳細にまとめた事故・ヒヤリハット、身体拘束等の事例を改善策に活かし、外部講師による認知症、身体拘束・虐待防止等をテーマにした研修会を開催し、職員の人権意識の向上に努めている。企画委員会では、ゲーム・書道・写経・脳トレ・上映会・カラオケ等の17種余のレクリエーションを企画し、入居者の閉じこもり予防と余暇活動の充実に努めている。入居者のレクリエーションへの関心度と参加率は高く、閉じこもり予防と余暇活動の積極的な取り組みが、入居者の日常生活自立度の維持・向上につながり、ホームの平均年齢が90歳にして、平均介護度2.2を維持している秘訣の一つになっていると考える。
6-2-8	入居者と家族等双方にホームの生活に関する希望や満足度に関するアンケート調査を行い、それぞれのニーズを把握している。生活相談員が全ての入居者の居室を訪問し、①食事 ②日々の生活や介護 ③健康管理 ④行事やレクリエーション等の6項目の設問を5段階評価で聴き取り、他に聴取したさまざまな意見や要望を自由欄に書き留めている。ホームは、本人と家族等のアンケート結果を理解しやすいように棒グラフで示し、双方から寄せられた意見や要望一つ一つにコメントし、運営懇談会の場で公表している。食事に関する意見や要望については、給食の委託業者が個別にコメントしている。
5-1-1	法人母体である老舗の料亭「あみ定」の料理業の経験や技術を活かし、「健康で長生きは私たちの共通の願い・・・」をモットーに、健康の源となる「食事」の豊かさに力を入れ、入居者に食べることの楽しさを与えている。予約すれば家族も入居者と会食することが出来、食材の鮮度・味・分量・盛り付け・器などへの配慮も行き届いている。運営懇談会に給食の委託業者が出席し、入居者と家族等に行ったアンケート調査の給食に関する意見や要望に答えている。毎月1日に赤飯を出し、七草粥等の季節感のある行事食を提供しています。誕生日会は、本人がリクエストした好物を豪華な器に盛り付け、お祝いの気分を演出している。月2回、法人母体の料亭「あみ定」の懐石料理（あみ定定食）を、料亭のスタッフのもてなしで提供している。毎朝食は、主食（ごはん・パン・サンドイッチ）と飲み物（牛乳・コーヒー・紅茶・お茶）から選択が出来、肉や魚の代替食にも応じている。月例の食事委員会で、給食の委託業者と情報を交わし、食生活向上に向けた取り組みを行っている。
6-2-8	毎日平均10人の家族等の面会があり、日常的に家族等との交流が図られている。家族に行事のスナップ写真や次月の行事案内「生活連絡表」等を郵送している。月1回開催の「家族交流会」には、入居者・家族等とホームの職員（管理者、介護・看護・生活相談・計画作成者・機能訓練士等）一同が出席している。ホーム側から入居者の生活の様子等を報告し、入居者や家族等からホームへの要望等を聞き取った後、茶話会で楽しみ、帰りに担当スタッフが家族等に手紙を渡している。7月の夏祭り（瀬田川花火見学）を兼ねた運営懇談会の出席率は60～70%と高く、屋上のテラスで会食を兼ねた花火見学で地域の協力者や家族等とともに楽しまれている。ホームは、利用者と家族等、ホーム職員とのつながりが深まるよう、常に工夫を凝らし働きかけている。
7-5-5	瀬田川が眺望できるホーム1階の機能訓練室に、筋力トレーニングの機器を設置し、入居者の介護予防体力維持に努めている。専任の機能訓練指導員が入居者一人ひとりの心身機能に応じたパワーリハビリテーション等を「機能訓練実施計画／評価」表に基づいて行っている。利用者自らが意欲を持ち閉じこもりや廃用性の機能低下の予防に取り組まれる様にはたらきかけている。訓練室まで移動できない入居者には機能訓練指導員が部屋に出向き、マッサージ・歩行訓練・関節可動域訓練・ベッドからの立ち上がりなどの訓練を行っている。3か月に一度開催の「安全講習会」では、職員・入居者がともに「転倒予防」「正しいシルバーカーの使い方」「正しい立ち上がり方」など、転倒予防等の知識と技術を機能訓練指導員から学んでいる。入居者の平均年齢が90歳にもかかわらず、平均介護度2.2を維持している秘訣の二つ目は、パワーリハビリテーションの取り組みにあると考える。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケルNo.	所 見
2-4-1	入居者や家族等並びに取引業者からの金品の授受に関するマニュアルが確認できませんでした。取扱いマニュアルを作成し、法令遵守とモラルの向上の観点から、職員研修等で職員に周知されることが望まれる。
6-3-1	「ステップアップスケジュール(キャリアパス)」を基に、入職後1年程度から上級の施設長レベルまでの経験・能力・職種・職階別、正規、パート職員各々のキャリアパスが、正職員は6つのステップ、パートタイマーは3つのステップから構成されているので、職員一人ひとりのキャリアパススケジュールの策定が望まれる。